



- 大泉南小4年生 白子川博士になろう学習
- 越戸川見学会に参加して
- 堰のことを考えたい(上)
- 竹炭・わら筆・プレートの焼印づくり
- 定例活動 報告
- 投稿「大泉に越した頃の話」その6

白子川な人(4)

ぶん 東谷篤 え 萩原和雄

川辺の朝は早い。鳥が鳴く、陽が昇る前から、もう人間たちは動き始める。グループで川べりを歩く人たち、動物と遊ぶ人、体を動かしている人、新聞を配るバイク。そんな朝の6時半少し前、一人ぼっちだった井頭公園の彫刻像の周りに、人たちがどんどん集まってくる。会話が交わされる。やがて、井頭橋の上にも人、川の反対側にも人。6時半。30人以上が一台の小さなトランジスタラジオから流れる音楽に耳を傾け、体を動かす■練馬に住んで45年になる鈴木邦子さんは、11年前リハビリのために一人でラジオ体操を始めた。二日目メリーさんが、三日目にはポギーちゃん加わり、そして徐々に今の人数まで増えてきた。取りきめ等は一切ない。参加も離脱も自由。年中無休、雨の日も人数は少なくなるが傘をさしてやっている■貼り紙がなされた、役所への苦情もあった。朝早いので無理はない。だから集まる人には、とにかく「静かに、静かに」と言う。その日初めて参加した人にはできるだけ声をかける。休みの重なった人にも「淋しかったよー」と声をかける。ストアで出会ったら「あらー、あ

井頭公園のラジオ体操ガール

鈴木邦子さん

なた、タイソーの…」と声をかける。参加者の年齢層は今のところ2歳から86歳。自分が来れない日には他の人に役を頼む。こうして11年続いてきた■「何も束縛がないから続いてきたのよ」鈴木さんは言う。ラジオ体操が終わり、参加者は語らいながら三々五々散ってゆき、彫刻像はまた一人に戻る。像は何も語らないが、11年の間、鈴木さんたちのラジオ体操を見まもってきた。



定例活動 報告

□白子川源流域のようす
★春から夏にかけて

水量は？

春先から夏にかけては、ときどき降る異常なドカ雨、そして梅雨の雨で、源流の湧き水は何とか保たれてきた。真夏の日照りの時期に、からからに渴いてしまう事態は免れているが、雨が降らない日が何日も続くと、たちまち底が見えてきてしまう危うさは、毎年変わらない。

生きものたちは？

4月、井頭橋と火の橋の間でフナ 300匹を確認。下水排水口でも 7cm から 20cm のフナの群れを確認。

6月、数種類のトンボやカエルが見られるようになる。そして、4月に確認したフナは6月初めには 200 匹、6月末には 100 匹となる。

7月末、水量の減るこの時期に、さらに水中生物たちを脅かす植物が繁茂してきた。かつては外来種のオオフサモ。近年は、従来から日本の沼地に生えてたカンガレイ、ウキヤガラ、ガマで、源流部をうめつくす勢いだ。このままいくと、やがて源流部の水辺は、沼地に、そして陸地と化し、貴重なホトケドジョウたちは生きる場を失うことになってしまう。

ギンブナ、アメンボ、アメリカザリガニ、ホトケドジョウ、ミズムシ、シオカラトンボ、ナツアカネ、イトトンボ、ヒキガエル、アカガエル、トウキョウダルマガエル、ツバメ

7月、背丈ほどあるカンガレイの緑の中で刈取り作業

源流域・水の測定データ

測定地点	日 天気 気温℃	4/25	6/6	6/27	7/25
		項目	13.5	24	31
源流部	水温℃	18.7	20	21.1	26.7
	水深 _{cm}	13	9	7	20
	pH	5.6	5.9	5.6	5.9
井頭橋	水温℃	19.5	20	23.8	24.7
	水深 _{cm}	27	23	22	23
	pH	5.8	5.9	6.4	6.6

上記は、毎月記録している測定データのほんの一部。このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量なども測定。

活動記録

4 / 25 定例活動	6 / 20 第 10 回 定期総会
4 / 29 源流通信第 29 号発行	6 / 22 南小「白子川学習フィールドワーク」
5 / 11 南小「白子川学習キックオフ授業」	6 / 27 定例活動
5 / 22 AM 運営会議	7 / 4 源流まつり実行委員会(第1回)
PM 竹炭、焼印、わら筆づくり	7 / 22 TOTO 水基金応募にともなう ヒヤリング
5 / 23 定例活動(雨天、水質調査 6/6 実施)	7 / 24 埼玉県越戸川護岸改修見学
6 / 6 身近な川の一斉調査	7 / 25 定例活動
6 / 11-12 練馬区環境月間展示 (豊玉リサイクルセンターにて)	8 / 21 白子川下流(向山)魚類調査参加



教室での授業

5/11(火)

大泉南小学校4年生の白子川学習が今年もスタートし、5/11にキックオフ授業を当会(菅沢、永井)が担当しました。

2回目は6/22のフィールドワーク。120名を4班に分けて、渋谷、鈴木安、横山、菅沢が案内しました。あわただしい野外授業でしたが、子どもたちの感性の奥のほうで、白子川の自然と大泉の町を一体として感じてくれたでしょうか…。(菅沢)



フィールドワーク

6/22(火)

ポイント

- ①井頭の森緑地公園の井戸観察／②大塚さん宅:クロメダカ飼育観察
- ③源流部自然観察と下水吐け見学／④橋・丘・切り通し観察
- ⑤鷺田さん宅:縄文遺跡記録見学

案内役を引き受けましたが、大勢の児童が相手となると不安がいっぱいでした。コース設定は当会で準備してありましたが、白子川源流の生物や植物、また自然環境についての知識は心もとなく、質問されたら説明できるかドキドキでした。しかし事前に、「教える事ではなく、子どもたちが自然に触れるお手伝いをし、子どもたち自身で考え調べるようにしてください」と助言され、多少気持ちが楽になりました。



みどり広場の井戸



大泉南小学校は息子が卒業した学校でもあり、親しみを感じての訪問になりました。元気な児童の顔を見て可愛いなあと思ったのが第一印象でした。自己紹介のあと、4組に分かれて出発。わが班は、みどり広場にある井戸の水確認の「ポッチャ〜」の音を聞き、白子川の水面と地下水でつながっていることの体験から始まりました。大塚メダカ博士宅では、メダカの卵を見、稚魚のえさはゆで卵の黄身から作るなどの説明を受けました。天気快晴で暑かったので、児童は準備した飲み物で一息入れ元気に白子川に向かいました。

白子川源流では川に入り、生物、植物、湧き水を学習。終了の時間がきても、「まだ入りたい!」という児童もおり、川遊びの魅力を感じたのだと思いました。

最後は、鷺田宅にある縄文遺跡のコーナーです。ここでは、土器や火おこしの器具の展示、工夫いっぱいの資料掲示があり、田んぼのある写真には驚きました。丁寧な説明を受けながら火おこしの体験をしましたが、多くの児童は興味を持ったようです。地元の方も見学していました。



地下で白子川とつながってるよ

メダカと縄文遺跡の解説は「水辺の会」の会員が担当し、交通整理のご協力もいただき、地域ぐるみのフィールドワークでした。無事案内役が務まったことは、事前準備も含めスタッフのおかげです。感謝。(案内担当:鈴木安友)

7~8mの地下に水脈があるんだ!



荒川水系の一級河川で、新河岸川へ合流する

こえどがわ 越戸川見学会に参加して

奥田 夏樹

7月24日の午後、和光市内の越戸川で行われている再生護岸工事の現場見学会に出向きました。この日は暑かったのですがほどよく曇り、まずは現場びより。30名ほどが集まり、当会からは菅沢代表と筆者が参加しました。

沖縄県の西表島で河川などの水辺の生きものの生態学を研究してきた筆者ですが、半径数kmの範囲に自分しかおらず、人工物もほとんどない西表島の河川と越戸川では、川といっても様子が違いすぎます。都内の川は、生態系としてはほと

んど機能していない、大きな下水道にしか見えません。

河川生態系の劣化はもちろんのことですが、練馬区は1950年頃と比べ、いまは6倍近くの約70万人が住む過密地域で、住宅ばかりの味のない風景になってきています。でも、いや、だからこそ、地域で生まれ育った人々が誇りを持てる風景の再生、芸術的インスピレーションを刺激するような地域性豊かな風景を少しでも再生させることは、今の都市では大切なことだと思っています。

セキ

堰のことを 考えたい(上)

菅沢 博



井頭橋のマルバヤナギの下に“井頭堰”がある。この堰は、“源流(上)”の水位を調節する水門の役目を果たしている。

2005年前後だったか、井頭橋のすぐ下の木製の堰が朽ちて、水もれが大きくなったため、素人発想で改修に取り組んだ。

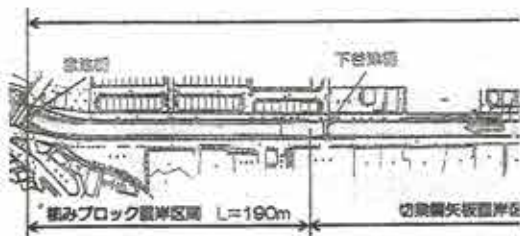
厚さ2ミリのビニールシートを敷き、その上に大量の大小の石を積みあげ、さながら“石積み堰”となり、風情も良く、流れる音もすばしくなったが、集中豪雨の増水時には石が流されたりで、「水量を調節」すべき堰が、時には機能しなくなってきた。

限られた湧水量の「源流(上)」の水を、年間を通して、いつでもだけ「保ち」、「流す」かは、田んぼの水を堰で調節するのと同じである。では、どのような方法が考えられるか、次号で検討することに…。

白子川日記

5月に始まった「白子川日記」への書き込みが続いています。7月18日には、川の近くに住んでいた通りすがりの高校3年生が、白子川への想いをつづっていました。これを多くの方が読んだことでしょう。私は大変励まされました。

昔この近くに住んでいた通りすがりの高3ですが、今日は暑がたおりに水量が少なくて、心か涼しく感じました。小さいころから見てきた白子川、この先の世代にもきれいなまま残したいですね。(2017)



そんな思いから参加したこの見学会でしたが、埼玉県知事肝いりの「水辺再生 100 プラン」の一つという割には、今ひとつ、残念感の漂う工事風景だったといわざるを得ません。確かに鋼矢板を撤去し、部分的に降りられるコンクリート護岸にすることは前進ではあるのでしょう。ですが、500mの区間で7~9億円という工費を費やすのであれば、より総合的な生態系再生のために、大きな費用の追加なしでできることがまだまだあるような気がしました。

例えば、河床や河岸で物理環境の多様性を確保することは、多種共存を促進する上で要となる要素です。自然の状態でのどのような生物がどこにいるのかという点において、残念ながら十分な生態学的検討をした上での計画とは思いませんでした。より良い計画を立案するためには、工学者が生物を学ぶだけでなく、生態学者の工事計画への参加が必要なのではないかと感じました。

一方、勉強になったのは地域の合意形成の過程です。川沿いの住民が事業に参画したことで、自分たちの地域づくりに主体的に関わるという意識が芽生え、地域コミュニティの活性化につながったようなのです。結果として工事の騒音などへの苦情も少ないそうです。白子川は越戸川よりも川幅が狭く、住宅も近接していますが、将来、よりよい河川景観を再生する事業などを行う際には、見習いたいものです。

『設立10周年記念特集号』(源流通信第32号)発行に向けて

来春発行の源流通信32号は、当会設立10周年を記念した特集号とする予定です。より多くの会員に寄稿していただきたいと思います。秋には、原稿依頼書をお送りしますので、その節は、よろしく願いいたします。(文字数は自由です)

源流部をポンプで浄化

薬を使わずに水をきれいにする方法があります。溜まり水と川底の泥をポンプでかき混ぜるだけで、悪臭やアオコなど植物プランクトンの繁殖が抑えられるというもの。最近、源流部はホトケドジョウが減少し、アオコや生命力の強い外来植物が激しく繁殖するなど危惧される状態にあるので、水中ポンプとホース等を購入して実験することにしました。

定置式ではなく仮設式で、その都度組み立てて設置しなければなりません。配線、監視もあわせて皆さんのご協力をお願いします。(渋谷)



※この装置はマリン技研製「ジェットストリーマ(JS)」にヒントを得たものです。JSは村山貯水池に12台、平等院鳳凰堂などにも設置され、各地の池や湖の水をかき混ぜて浄化中です。



昭和37(一九六二年)、南大泉の生活が始まった

大泉に越した頃の話(その6)

池野 明男



私の記憶に残る東映と映画(一)

大泉といえは、城北・西の有力私鉄、西武鉄道池袋線の都区内最西端に位置し、元は「東大泉」という名称だった大泉学園駅があります。この駅は一名「学園駅」でも通用し、西武池袋ターミナル駅は別格としても池袋線では乗降人員において所沢とシノギを削る有力駅に成長しています。バス等の交通関係では、北口に新座、和光、志木、片山方面の西武バス、南口からは西武新宿線の上井草、上石神井へ、及びJR中央線(吉祥寺、三鷹、西荻窪等)と連絡する、西武、関東の各バス路線が発達しています。また地域コミュニティバスや都バス路線もこの駅前が終始発の場所となっております。従って大泉学園駅とその周辺は二十三区内最西北部に於ける一大交通の要衝でもあります。

この大泉の地は、映画撮影花やかなりしころ(戦中〜戦後、昭和四十年ころ)から、松竹や東宝、大映、日活と並ぶ映画界の雄、東映の東京撮影所が存在しており、前述の大泉学園駅と東映のきずなは深く、昔は地元の人やこの地区への所用や僅かの通勤客は別として、有名、無名の映画俳優やエキストラの人達、製作スタッフ、道具等の要員達——これらの人々の大半がこの大泉学園駅の利用者だったとこのことです。東急東横線の田園調布駅のような西洋館風の駅舎の改札口から、映画撮影の準備や本撮影のときは撮影所の映画関係者がソロソロ引きもきらずトースツに向う風景はさぞ壮観だったことでしょう。

この撮影所の建物群は、西南から来て北東に流する一級河川・白子川の南側段丘上にあり、最盛期は大小数十棟のスタジオオセットの建物や事務棟や教習棟がそび

え立ち、昔の「比丘尼田圃」の谷を見下ろして「東映映画王国」を誇っていたことでしょう。このいわば「大泉映画村」の歴史は、開所時の東横映画から大泉映画〜東京映画・大泉撮影所と変遷し、昭和二十六年(一九五一年)、日本映画界では劃期的な大合併により東映株式会社設立され、この傘下に東映東京撮影所が誕生しました。そのころの東映施設は、東側の現在のLIVINオズ大泉店や東映アニメ会社の敷地に銀座や新宿の街をそっくり模したオープンセットや、道具の一大集積棟(惜しくも焼失)があつたことです。

(次号つづく)



第10回 定期総会報告

6月20日に第10回定期総会が開催され10年目の活動がスタートしました。運営委員のリードのもとに、以下の活動方針(主な項目)に沿って活動していきますので、会員のみなさんよろしく願いいたします。

☆なお第2部は、中村東蔵会員による講演があり、日常に潜む特定化学物質の恐ろしさを痛感しました。

*

【今期の運営委員】

池野明男、岩田麗子、渋谷瞭司、菅沢博、鈴木一彦、鈴木安友、東谷篤、永井薫、町田勇、望月広、横山松栄、鷺田芳夫、渡部薫

【今期の活動方針】

1. 定例活動 毎月第4日曜午後1時半より
2. 水位計測
3. 第10回白子川源流まつり 10/24(日)
4. 近隣小学校の総合学習への協力
5. 白子川の学校用教材の企画編集
6. 濁水対策としての井戸調査
7. 10年史発行
8. 雨水浸透枡の普及
9. 聞き取り調査
10. 川体験の受け入れ、出前講座の実施
11. 『湧水の白子川』プレートの取付
12. 「白子川グッズ」の販売促進と在庫確保
13. ウェザーステーション計測

竹炭づくり わら筆づくり プレート焼印



5月22日(土)みどり広場で竹炭づくりをしました。同時に、わら筆づくりとプレートの焼印もおこないました。

都内でも火を焚いて炭焼きができると思うと、年甲斐もなくわくわく気分でした。しかし、炭焼きは冬の風情ですね、やはり5月の炭焼きは暑かった。先輩の「冬に焼きたいね」の言葉は然りでしたが、缶のふたを開け黒い竹炭を見た時は、汗も吹き飛ばす感激でした。竹が納められた炭焼き用の缶の変化は次のようでした。

最初は水蒸気のような薄い白い煙が出る⇒濃い白色の煙になる⇒薄い青色の煙になる⇒さらに透明になり炎が出る⇒ガスが吹き出て鮮やかオレンジ色が激しく燃えた⇒時間が経過して、ちよろちよろとオレンジ色の炎に変わった

火に入れてからだいたい40分ぐらい経っていました。そのあとは炭焼き用の缶を火から出し、土中に埋め1時間くらい冷やします。缶を開けて待望の竹炭の完成!! 流した汗が報われました。(鈴木安)

自由投稿

白子川の下流域で活動しているI氏が言う、「..普段私たちは、土というものを意識することが少ないが、実は土の中には膨大な数の微生物がいて土を蘇らせている。だから土は、すべての命を支えているんだ」と。

驚いた。大きくてハッキリ見える物にすぎることが多い私だ

小さいもの、 見えないもの

菅沢博



が、その事の意味を俄かに理解した。

小さくて見えないものこそが、私たちを生かせてくれている、過去に消えていった無数の命も土に戻って「今生きているもの」を支えてくれているんだ。土の世界にも眼を向けなければ、白子川を知ることにはならないようだ。

ショウジョウトンボ

6月から7月にかけ源流部の下水吐けのあたりを、毎年単独でなわばりにする赤いトンボが現れます。これがショウジョウトンボです。赤とんぼにはアキアカネ等が有名ですが、6月頃から赤い色をし、縄張りを作って単独行動するのは、この種の特徴です。

オスが赤色で、メスは茶色です。目まで赤いのも特徴です。大きさは4~5cmくらいで、腹は幅広がり特徴です。ヤゴの時代は水草の間に潜んでいます。

食物は水辺の小昆虫です。目立つ色なので、ツバメなどに狙われやすく、8月頃には源流には見られなくなります。



「白子川源流まつり」10月24日開催 !!

大泉井頭公園 12:00-15:30 (雨天会場: 大泉南小学校体育館)

★会場に展示する作品を募集…写真、俳句、短歌、書画 など

わら筆

つくります

9月4日(土)

午後2:00~

みどり広場



■今後のスケジュール

- 9/4 わら筆づくり
- 9/19 東久留米湧水シンポジウム
- 9/26 定例活動
- 10/23 定例活動
- 10/24 白子川源流まつり
- 11/28 定例活動
- 12/26 定例活動

☆定例活動は午後1:30~に変更

編集後記

▼5月の夜、大きなガマがやってきた。翌朝、庭の植木鉢に潜んでいるのを見つけた。夜になると玄関前に現れ、昼間は隠れ家でじっとしていた。私はガマに親しみを覚えて、毎朝隠れ家を覗くのが日課になった。7月の暑い朝、ガマの姿はなく、その跡だけがまるく凹んでいた。(さ)

▼7月の定例活動から2週間たった源流域には、アオコが以前にも増して水面を覆いガクゼンとした。この夏は異常な猛暑につき、腐ったオオフサモの堆積もあってか栄養十分。カンガレイやミクリなどの植物群を見て、大塚さんは「沼だな」と、ぼつり。湧き水が追いつかない。(け)

※この会報は年3回発行しています

発行 白子川源流・水辺の会
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字 宮本沙海
発行部数 1000部
代表 菅沢 博 03-3923-8430
練馬区南大泉 1-10-5
suga-1ohas@jcom.home.ne.jp
http://www.geocities.jp/sirako_river/